学　会　記　事

第21回新潟GHP研究会

日　時　平成31年2月23日（土）
午後3時30分～午後6時35分
会　場　ANAクラウンプラザホテル新潟

I．一　般　演　題

1　エナジードリンク長期飲用の中止後に統合失調症様症状が出現したカフェイン誘発性精神病性障害の1例

恩田　啓伍・湯川　尊行・井上　絵美子
魚沼基幹病院精神科

【はじめに】近年，カフェインを多量に含有するエナジードリンクが若年者を中心に流行し，カフェインによる様々な健康被害が問題となっている．今回我々はエナジードリンクの長期飲用を中止後に統合失調症様症状を呈した1例を経験したので報告する．本発表は本人および母の同意を得ている．

【症例】16歳，男性．X-2年12月（中学2年），イラスト制作に没頭するようになり，深夜に眠気を覚ますためにエナジードリンクを飲用するようになった．徐々に摂取量が増え，X-1年冬には1日10本（カフェイン換算：1420mg）を摂取するようになり，「誰かを殺したい」という衝動に襲われ，その衝動を紛らわすためにボールペンで自分の腕を傷つけるようになった．

X年4月，高校に進学後，エナジードリンクの習慣的な飲用をやめるように度々担任教師から指導され，8月27日にエナジードリンクの摂取を完全にやめた．9月7日，授業中に突然，頭の中に「もう一人の自分」が現れるようになった．9月11日，「もう一人の自分」から命令され，「もう一人の自分」との会話内容を紙に記録した．その際，「周囲の人間を殺したい」と，高校教員に訴えたため，教員に付き添われA病院精神科を受診した．カフェイン誘発性精神病性障害が疑われ，抗精神病薬は処方されず経過観察となり，その後，徐々に「もう一人の自分」が出現することはなくなり，1か月程度で考想吹入様，作為体験様の症状は消失した．

【考察】カフェインはアデノシン受容体遮断作用を介してドパミン神経系へ間接的に作用するため，多少なりとも精神的・身体的依存性があると考えられている．近年，エナジードリンクは若年者も簡単に入手でき，様々な心理社会的要因から依存形成しやすいため，エナジードリンクによるカフェイン関連精神障害について特に注意を喚起したい．また，カフェインの長期多量摂取は精神病症状を惹起しうるため，統合失調症との鑑別疾患としても留意すべきである．

2　持続するうつ症状に加え，緩徐進行性の認知機能低下も出現しCADASIL疑いと診断された1例

上馬塲　伸始・大竹　裕美・大塚　道人
野崎　洋明*・牧野　邦比古*
県立新発田病院精神科
同　神経内科*

CADASIL（cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy）は遺伝性脳小血管病変の中で常染色体優性遺伝形式をとる代表的な疾患であり，大脳白質を中心とする再発性脳梗塞をきたす．典型的には30歳台で前兆を伴う片頭痛を発症し，40歳台で気分症状や皮質下梗塞，50歳台で認知症や歩行障害を発症し，60歳前後で歩行不能となる．1996年に原因遺伝子NOTCH3が同定されてから，欧州や米国を中心に数多くのCADASILの報告があり，本邦でも報告が増えつつある．

双極性障害で通院加療中，軽快と増悪を繰り返すうつ症状に加え，認知機能低下や歩行障害も出現したことでCADASILが疑われた症例を体験したので報告する．なお本症例についての事例発表について，本人から同意を得ている．